

1等三角点の山

子持山 KOMOCHIYAMA

難易度 **中級**



地形

子持山は那須火山帯に属し、火山活動を始めたのは第四紀の中頃（50～60万年前）です。獅子岩（大黒岩）と呼ばれる火山岩頭を中心に長い間噴火をくりかえし、噴出した溶岩や火山礫などが積み重なって富士山型の成層火山が造られました。

この間、何回かにわたって岩脈が貫入しています。噴火活動の末期に大爆発が起こり、山頂部分が吹きとばされ、そこに小さなカルデラができました。発生した泥流は南に流れ、扇状地が形成されました。カルデラの中にできた中央火口丘が現在の山頂（笠上1296.4m）です。

子持山は噴火活動をやめてから長い年月が経過しているため、火山岩頭や岩脈など火山の内部を直接みることができるのです。次の1～5は右図の地点です。

1
大きな岩が沢一面にひろがっています。これは子持火山の活動の中頃に流れ出した溶岩です。白い斜長石の斑晶のよめだつ安山岩です。わずかに見られる黒い鉱物は輝石です。

2
道のわきや川に沿って、ところどころに火山の内部のそいでいます。激しい爆発で吹きとばされてきた火山灰や岩片が推積してできた凝灰角礫岩はゴツゴツした感じで、赤茶色や暗灰色の火山灰のなかに多少丸みをおびた岩片がたくさん入っています。この岩片は穴だらけでスコリアとよばれています。マグマの破片が火口から噴出し、ガスが抜けてできたものです。

3
厚さ2mほどの薄い溶岩とその下位の凝灰角礫岩が見られます。ここでは溶岩の上面や底に近い部分は、中心部と違い、急に冷やされたため、ガスの抜けた穴がたくさんあり、ガサガサした感じます。

4
ガスの抜けた穴がたくさんあいている2枚の安山岩の溶岩が重なっています。

5
細長い箱を積み重ねたような、幅数mの安山岩が垂直に立っていますが、これが岩脈です。ここには3枚の岩脈が集中しています。箱を積んだような割れ目は柱状節理です。柱状節理は岩脈によく見られます。岩脈の両側を見ると凝灰角礫岩や溶岩の割れ目にマグマが貫入してきたようすがわかります。マグマが違った時期に何回かに分かれて貫入してきたので岩脈をつくっている安山岩にいろいろな種類があります。

子持山山頂から谷川連峰を眺望



びょうぶ岩

岩脈の一つである屏風岩は、一枚の岩の板です。かたい安山岩が長い間の浸食にたえてできあがった自然の芸術作品です。水平にはいった柱状節理がみごとです。



しし岩（大黒岩）

高さ約100mの円筒形の岩の塔が、しし岩です。火道につまっていたマグマが冷え、はげしい浸食にうち勝って残された火山岩頭です。火道というのは地下深くから火口まで、マグマやガスの通路になったパイプ状の細長い穴のことです。

しし岩を中心としてほぼ放射状に走る岩脈は火山岩頭とともに日本で最もすばらしいものの一つといわれています。

頂上に立てば三国連山をはじめ県境の山々、利根川の蛇行する関東平野を一望のもとに見渡せる景観を味わえます。



8号橋より上流部

切り立った岩壁をみるとたくさんのスコリアを含んだ凝灰岩が多く、溶岩は少なく、時々薄いものが挟まれている程度です。長い間浸食を受け塔のようなものや、弱い部分が激しく削り取られて、洞穴ができてきたり、橋のようになつたりしているのがみられます。



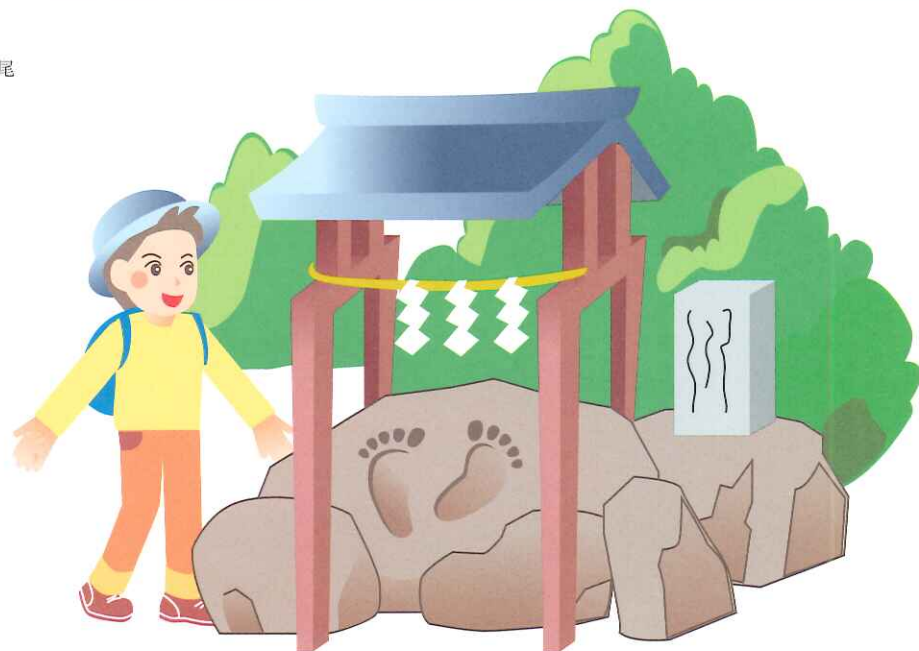
おすすめ カレンダー

最適 適

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				新緑		夏山				紅葉	

コンディション

持山 2.5km 小峠 4km 寺尾
1時間10分 1時間



女神のあしあと（子持神社）

花と歴史の山旅 田中澄江 著

【東京新聞出版局から子持山について一部抜粋】

『群馬県の地質をめぐって』の子持山の頂を読んだら赤城や榛名や小野子山より古い火山（上州武尊山とほぼ同じ）で火山岩頭が露出し（大黒岩）、これを中心に放射線状の岩脈が数十本も走っている、日本でも珍しい火山地形を示していることがわかった。子持ちというような名称はそのうちにふくむ谷の複雑さから出たのではないだろうか。

万葉の「東歌」は強烈な恋歌である
子持山若楓のもみづ寝寝もと吾は思ふ
汝は何か思ふ

子持山の若い楓の葉が赤く染まるまで、春から秋まで自分はお前を抱いていたいがお前はどうかという

（中略）

子持山を西側の電波塔のところまで車で入って頂上まで歩いて、南にのびる稜線から大黒岩までを遠望した。

はるかに利根川や赤城山も見えてなかなかの眺めである。そして、上から見てはじめてこの稜線が爆裂火口の外輪山であることがわかった。私が稜線に出ようとして道なき道を辿って、登ったのは急峻な火口壁であったのだ。とめどなく火山礫とはいの層がくずれ落ち、登っては滑り登っては滑り、支えにと掴む木の根は小檜や楓や樺などの古木で、力をいれるとはじからポキポキ折れた。

子持山登山は稜線を歩くこと、これが迷わないコツ。ということはその日、もう一組迷って、もと来た道を戻ったグループと一緒に帰ったからである。



山ゆり

野の可憐な花と語り
深い歴史にまどろめば
小鳥がやさしくさえずり歌う
いいなア、自然の中に続く緑の小径
歩いてみようよ、子持の里で
NATURE WALK!



歌碑

■児毛知夜麻 和影嘉平瓊代能 毛美都麻代
寝毛等^な和波毛布 汝波安^な舒可毛布

作者不明

※「万葉集」東歌の相聞歌に収められているこの歌の碑は子持神社境内の石垣の上にあります。

■子持山紅葉を わけて入る月は
錦につつむ 鏡とぞ知る

円珠尼

※歌碑は屏風岩の登り口にあり
ます。



万葉歌碑

■子持山谷懐露に生いたてて
木々の葉くむ花をこそみれ

中将 姉小路清継

※歌碑は屏風岩の頂上にあります。

■子持山 かえでの宮に祈らくは
わが恋のさち わが歌のさち

雲わたる 天のまほらに 獅子岩は
大口あきて たけり立ちたり

須藤泰一郎

※歌碑は子持参道松並木にあります。

■子持山 若葉のときに 我は来て
草をぞ集む 手に餘るまで

土屋文明

※歌碑は子持山登山道へ向かう途中の上白井伊熊
にあります。

句碑

■山婦可巳 土用も知らぬ呼子鳥
花考

※土地の俳人、花考の句碑は子持神社の旧参道に
あります。